

## 事業実績書

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 子どもと大人が地域で学び合い繋がる学習支援「にじっこ」   |
| 場所   | 沼津市日ノ出町 地内  |
| 期間   | 平成29年7月6日 ~ 平成30年3月30日  |
| 日程   | 実施項目・作業項目   |
| 事業内容 | <p>「学習支援」にじっこ開催</p> <p>日時 7~3月 毎週土曜日 午後13時~16時 一部火・木・金開催</p> <p>会場 サンウェルぬまづ フリースペース 食堂 他<br/>静岡アカデミー高等学院(7月~8月大岡 9月~上土町)自宅訪問 他</p> <p>内容 学習支援が必要な人々が抱える複合的な課題をもつ世帯を、市民ボランティアを中心として、一人ひとりの学習や就労意欲を引き出すこととともに地域で支えることを目的として事業を行った。学習教材が必要な場合はプリント・ドリルなどを配布し、就職や受験の面接指導なども行った。また、ひとり親会と一緒に10~12月は月2回、1~3月は月1回食育指導も行った。子どもたちやサポーター以外に若者や失業者など毎回10名ほどの参加があった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>┆ 高校中退者 低学年用ドリルを用いて学びながら履歴書の書き方指導や面接練習などを行い、就労につながった。</li> <li>┆ 乳児がいるひとり親世帯の母親(看護学校希望者) 子育て優先で時間が不定期のためアウトリーチの学習サポートと子どもの見守りを行う。また、看護師や看護学校卒業生のサポーターから看護の仕事について相談を行った。(本年は受験せず)</li> <li>┆ 月1回、学習支援サポーターの研修会を行い、スキル向上と、子どもたちの生きづらさや生活の困難さについて学んだ。</li> <li>┆ 別事業のひとり親世帯の子どもたちの居場所、学習支援のサポーター派遣を行い、子どもたちと若者や、困り事を抱える人、そして地域のボランティアとの関わりが多くなった。また、夏休み中の見守りのサポートをきっかけに、食材を地域の方に提供していただき、食育活動をひとり親会と共同で10月から行なった。</li> <li>┆ 10月より勉強だけでなく、興味関心を深め、生きる力を育て、参加者を増やすことを目的とした大人も子どもも学び合い『にじっこまなび場』を月に1回開催した。</li> </ul> <p>土曜日学習会(33名)<br/>7/15(2名)7/22(1名)8/5(2名)8/12(0名)8/19(0名)9/8(2名)9/30(0名)<br/>10/7(0名)10/21(1名)10/28(0名)11/4(0名)11/11日(1名)11/18(0名)11/25(1名)12/2(0名)12/9(0名)<br/>12/16(3名)「歴史雑学王・戦国時代・沼津に城があったの?」講師 伊藤和行 H30/1/6(1名)1/20(0名)1/27(10名)「ピートルズ知らにゃあ」2/3(0人)2/10(1名)<br/>2/17(8名)「サイエンス劇場・サイコロで実験 平等ってなんだろう」<br/>2/24(0名)3/3(1名)3/10(1名)3/17(13名)「にじっこまなび場 おしえてラブライブ!」<br/>木曜学習会(合計13名)<br/>7/7(7名)7/14(2名)7/21(2名)7/28(1名)</p> <p>研修会<br/>7/31 講師 河合孝彦(15名)9/28 講師 津富宏(18名)11/30 定例研修(7名)12/21 厚生労働省視察受入 定例研修 2/22 定例研修 3/29 講師小和田尚子 定例研修<br/>写真は次ページに添付する</p> |
| 事業効果 | <p>さまざまな事情で義務教育を修了できなかった人たちが、学び直しをするきっかけとなる場を提供、そこで、学びの間口を広くし、誰もがいつでも学べる、更に学びたい人を次のステップへつなぐ仕組みを作ることが出来た。また、教育だけでなく、学習経験が少ない者も自分のペースで学びの場に参加し、就労への道筋に繋ぐことが出来た。またひとり親会と一緒に活動したことで、多様な年代の関わりが構築された。不登校や中退者の就労や学び直しの相談を市民</p>   |

|         |  |
|---------|--|
|         | が行うことで、早めの学び直しにつながっていった。   |
| 今後の活動予定 | 毎週土曜日 13時～16時にサンウェル内で学習支援を継続し、月に1回程度の学び合いの場も開催する。また、地域活動を通じて学習支援を行うサポーターも各地域に増えてきた。今後も、校区に1拠点も目指し誰もが学び合える地域づくりを行う。また、4月からの事務所を静岡アカデミー高等学院内に置き、不登校や中退した若者の相談や学習支援を行うと共に 高等学校卒業程度認定試験合格を目指し、誰もが就労できるようにサポートを行っていく。 |
| 自己評価    | 途中担当者の病気で利用者が少なくなってしまったが、単に学力向上を目指さず、人と人とのつながりを大切にして、安心して学べる環境と、学びの関心を作り、学習支援の場を作ることが出来た。生きづらさを抱える子どもや若者たちの声を地域の人が聞き合うことで、地域問題として活動の場を広げ、今後もさらに子どもたちに寄り添える仲間を増やし名から学習支援を行っていく。                                   |

